

区民提案・意見募集の実施結果について

1 実施および応募状況

方法	ホームページ	個別アンケート	区政モニター アンケート
募集期間	平成29年 8月1日～8月31日		平成29年 8月4日～28日
対象	区民等	区内在住の 満20歳以上の男女 2,000人	区政モニター 200人
内容	自由記述 「将来のまちの姿 と実現に向けた提 案」	設問（3問） 自由記述 「将来のまちの姿と実現に向けた提案」	
応募数	18件	451件 回答率:22.6%	158件 回答率:79.0%

【集計中】

方法	区民意識意向調査
募集期間	平成29年9月2日～9月19日
対象	区内在住の満20歳以上の男女 3,000人
内容	設問（1問）

2 集計結果

(1) 設問

問1 将来の練馬のまちづくりを進めるうえで、あなたが重要と考えるものを2つ選んでください。

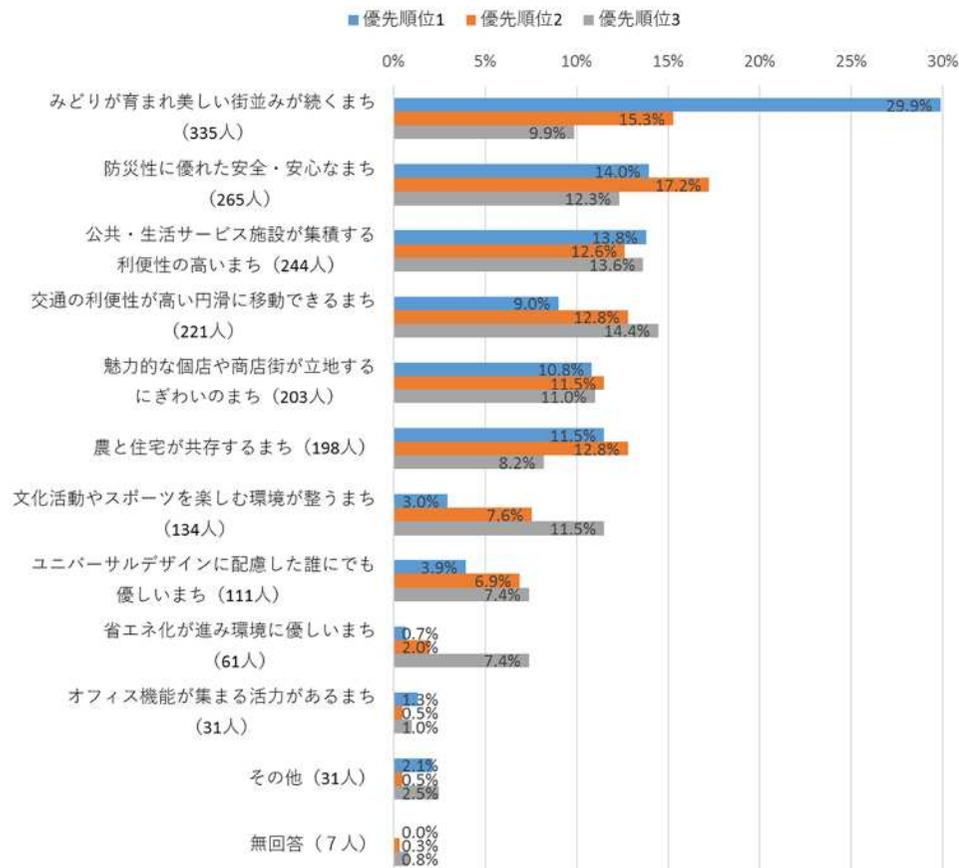
将来の練馬のまちづくりに重要なもの
(n = 609)



2 集計結果（つづき）

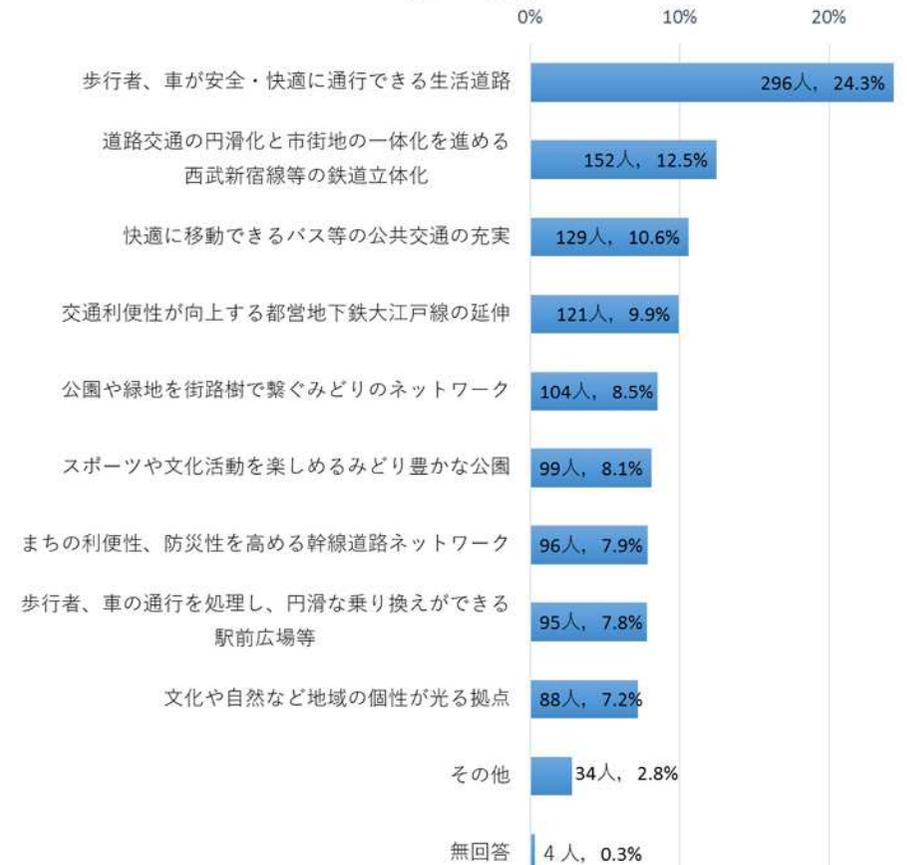
問2 将来の『練馬のまち』にふさわしいイメージを、次の中からあなたが考える順番に3つ選んでください。

将来の『練馬のまち』にふさわしいイメージ
(n = 609)



問3 将来の『練馬のまち』を支える都市インフラや機能として、あなたが今後必要と考えるものを2つ選んでください。

『練馬のまち』を支える都市インフラや機能
(n = 609)



2 集計結果（つづき）

(2) 自由記述

問4 将来の『練馬のまち』に望む姿と、それを実現するための提案や意見を自由に記入してください。

区分	分類	主な提案・意見の内容
都市 インフラ	道路	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を拡幅し、歩車道をしっかりと分離してほしい ・住宅地の狭い道路は電線を地中化し、少しでも歩行者のスペースを確保してほしい ・一定幅以下の道路は車両通行止めとし、歩行者天国の商店街にするなど、街を活性化する大胆な施策を望む ・道路の拡幅には財政面の負担が大いなので、今の道路幅のままでも自動車を一方通行にするなどして自転車専用道および歩行者専用道を整備してほしい ・ヨーロッパの街のように、車の入れない街路、商店街、住宅地、学校エリア等をつくる（「街中」と「街の外」をはっきり区別する）
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・区内南北の交通網の充実 / ・踏切による交通渋滞解消を図る鉄道の立体高架化 ・主要な駅、施設等を自動運転化されたバスで繋ぐネットワークの整備 ・都営地下鉄大江戸線の延伸と新駅の設置により来街者が増え、大泉学園を桜の名所として知名度をより広域の人々に知らしめることができる ・自宅から公共交通機関への移動を容易にするため、徒歩5分以内にシェアバイクのポート、徒歩7分以内にシェアリングカーが使える場所がある環境 ・セグウェイやシェア原付、Uberなどの新しいモビリティも法制度を緩和し、新しい移動手段へのシフトを推進
	駅周辺のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前で地元産の野菜を販売する朝市を開催 ・駅前にはカフェやおしゃれな雑貨屋が立ち並ぶ街で、一歩中に入ると車通りの少ない、安全でみどり豊かな街並みが広がるイメージ ・若い世代向けの店舗が入った大型ショッピングモールにより駅前をブランド化する。インスタグラムなどで外部へ発信できるようなまちづくりが必要 ・職住近接のコンパクトシティを目指すべき ・区内に企業誘致することにより、通勤時間を軽減し、子育てや介護に充てる時間を増やす必要がある
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがボール遊びなど自由に遊べる公園のルール作りを望む ・じゃぶじゃぶ池など夏場などに水遊びができる場所をつくってほしい ・雨の日や暑いときに子どもが室内で遊ぶことのできる施設 ・虫取りなど季節の風景が楽しめる、あまり手入れしない自然のエリアがある公園
	みどり	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹や公園の中の道には季節を感じられるような花々が植えられた花壇を見られるようなまちづくりをしてほしい ・緑の多さを強みとした休憩スポットが街中があれば、小さい子供や高齢者が休息できたりして良い ・街路樹、公園樹木の整備へのボランティア、シルバー人材の活用 / ・空き家の買い上げ、整備による緑地化
	農業・農地	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家やまちづくりなどにより創出されたスペースを有効活用し、練馬区の強みである広い農地、緑地を更に広げていく ・農地を借りられるシステムや農業体験、果樹狩りなどができる場所の案内などを子どもが生まれた世帯への郵送物に同封したり、健診会場で配布すれば農業が身近になり、農地の保全にもつながる ・農地を減らさない方策として、区が農業の後継者を紹介したり、第3セクターで農業会社を立ち上げるなどの検討が必要
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の公園には誰でも簡単に使うことができる消火栓を設置し、地震時の火災に対応できる環境を整備する ・地下避難ができる巨大なシェルター、食料品の備蓄庫をつくる ・現在の避難拠点だけでなく、近隣の公共施設などと連携した避難拠点づくり ・近隣のスーパーやコンビニエンスストアなどとの連携により、食料などの物資の提供を得ることができる体制づくり
	その他	子育て
福祉		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが周囲の環境を気にせず遊べ、元気な高齢者などの力を借りて、放課後の居場所、宿題ができたような場所をつくる ・保育園、幼稚園と高齢者施設を統合することにより、高齢者と子ども、保護者（若年層）の世代間のコミュニケーションを深めることになる
コミュニティ		<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験や家庭菜園が一般的になり、高齢の知識のある方から直接知識を得られる機会を活かして、密接な交流関係が築けるまち ・運営は元気な高齢者にお願ひし、ボランティアの若い人がサポートする形として、「街かどケアカフェ」のような気軽に行ける場所をたくさん地域に増やす